

## 矯正歯科治療に伴う一般的なリスクや副作用・注意点について

- ① 治療中、装置の装着や咬合状態の変化などにより一時的に咬みにくくなる場合があります。
- ② 歯の動くスピード、また成長発育期には個人差があるため、治療期間が予定から変更されることがあります。
- ③ 装置の使用状況、顎間ゴムの使用状況、定期的な通院等、矯正治療には患者さんの協力が非常に重要であり、それらが治療結果や治療期間に影響します。
- ④ 治療中は、装置が付いているため歯が磨きにくくなります。むし歯や歯周病のリスクが高まりますので、丁寧に磨いたり、定期的なメンテナンスを受けたりすることが重要です。また、歯が動くとき隠れていたむし歯が見えるようになることもあります。
- ⑤ ごく稀に歯根吸収（歯の根っこが短くなる）を認めることがあります。
- ⑥ 治療途中に金属等のアレルギー症状が出る場合があります。
- ⑦ 歯の形を修正したり、咬み合わせの微調整を行ったりする可能性があります。
- ⑧ 装置を外す時に、エナメル質に微小な亀裂が入る可能性や、かぶせ物（補綴物）の一部が破損する可能性があります。
- ⑨ 装置を外れた後、保定装置を使用しないと後戻りの可能性が生じます。よい歯並びを維持していくために、定期的な来院が必要になります。
- ⑩ 装置を外れた後、現在の咬み合わせに合った状態のかぶせ物（補綴物）やむし歯の治療（修復物）などをやりなおす可能性があります。
- ⑪ あごの成長発育により咬み合わせや歯並びが変化する可能性があります。
- ⑫ 治療後に親知らずが生えて、凸凹が生じる可能性があります。加齢や歯周病等により歯を支えている骨がやせると咬み合わせや歯並びが変化することがあります。その場合、再治療等が必要になることがあります。
- ⑬ 矯正歯科治療は、一度始めると元の状態に戻すことは難しくなります。
- ⑭ 治療の経過に応じて、治療計画、治療費に変更が必要な場合は必ず事前にご説明いたします。